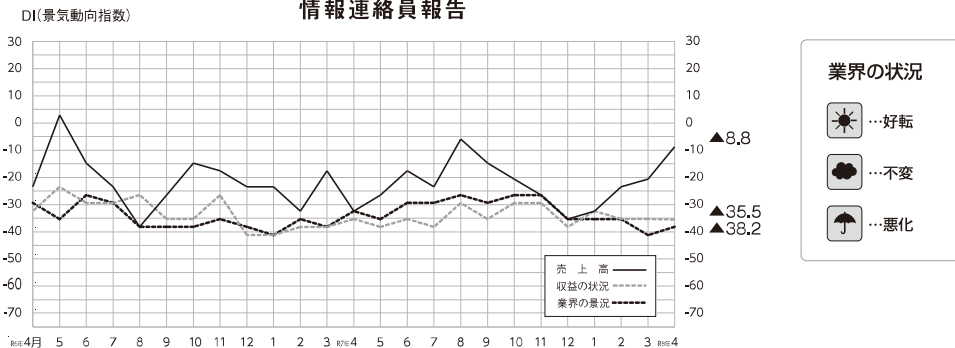


情報連絡員報告



業界の状況

- ...好転
- ...不変
- ...悪化

	なし
--	----

食品団地	中東情勢に起因する消費者マインドの冷え込みなどにより、売上、収益とも減少傾向にある。さらに夏場に向け、エネルギーや包装、資材等の素材コストの高騰が見込まれることから、内部経費の節減や食品価格への転嫁などの対策に迫られている。今後も引き続き注視が必要。
テントシート	原材料の高騰を販売価格への転嫁が出来つつあると思われるなか、本年2月1日より製品の値上げがあり(商品によるが0.05%~0.25%)、まだまだ厳しい状況である。このような状況のなか、付属品(ロープ類、ハトメ、ミシン糸)の値上げ、また中東情勢により原油・ナフサ価格の上昇および石油化学製品の供給環境の悪化の影響で、全製品の大幅な価格改定(5/1~6/1より)があると思われる。販売価格への転嫁に厳しい状況が続くと思われる。
木製品素材生産	4月期の原木出材量は、先月と変わりなく天候にも恵まれ順調に入荷している。丸太価格については、一部の樹種(ヒノキ3m柱適材)が依然として値下がりしている状況ではあるが、全体的にはほぼ横ばい状況。5月に入り、原木出材量は好天が続けば大きな影響はない。また、丸太価格については製品の動きが相変わらず鈍いため、一部(ヒノキ3m)で値下がりが続いており、先行きは見通せない状況。
建具	仕入価格の高騰により、商品の値上げをせざるを得ない状況である。
製紙(家庭紙)	紙製品全体としては、販売金額は前年同月比で上回ったが、販売量及び生産量は下回った。また、品目別では、雑紙が販売金額及び生産量ともに前年同月比で上回ったのに対し、衛生用紙は販売金額が前年同月比で上回ったが、販売量及び生産量ともに下回った。なお、緊迫する米・イラン情勢を受けた原油高騰は、紙製品のコスト増を招き、企業の収益を著しく圧迫する懸念が出ている。
製紙(手すき和紙)	今月より、新年度のスタート。人の動きはあるものの、物価の高騰が収まらない状態が厳しい。中東の問題も緊張感が高まり、今後の影響がなかなか見通せない状況。
コンクリート製品	対前年同月比118.5%。今後も昨年度と同様に推移すると考えている。
刃物製造	新年度にならずに低調。今後の中東情勢による諸経費の高騰により、商品の価格改定もあるかもしれない。注視しなければならない。
機械団地	団地内の業況に特に変化はなく、横ばいの状況が続いている。令和7年度の団地内の売上高総計は、前年に比べて4%ほど増加しているが、昨今の原材料費やエネルギー価格の高騰、円安や賃上げの進展などが影響し、売上の伸びほどに収益状況は改善していないことが想定される。
船舶製造	製品を出荷する際に必要な作動油類の入手が難しくなり、先行きが不透明。機械加工用のオイルや梱包用のフィルム類の入手も難しくなっている。
珊瑚装飾品製造	4月度の取引額は前年同月比で163%。コロナ禍前(令和元年4月)と比べても123%と、回復傾向にある。
青果卸売	4月の取扱高は組合員全体で前年対比99%となった。3月に比べ、4月の取扱高は上昇したが、まだまだ好転したとは言いがたい状況。今年1月から4月までの累計は94.6%となった。
生鮮魚介卸売	前年比20%ダウンで大変である。原油問題で漁船の燃料が確保できているか心配している。カツオは小さいが美味しくない。

中古自動車小売	一部車種を除き相場も安定しており、流通量は少ないものの仕入れが効率的に行えている。高年式車両にもかかわらず、幅広い年式車両が売れている。
商店街(高知市)	4月の駐車場利用台数は、前年同月比105.9%となり、前年同月より1,419台増加した。あわせて、料金収入についても前年同月比112.8%となり、前年同月より1,059万円の増収となった。また、人流カメラによる集計では、4月の来街者数は前年同月比3.5%増となった。特に、4月11日(土)・12日(日)に開催された「高知アニクリ祭2026」は多くの来街者を集め、商店街の人混みに大きく寄与したイベントとなった。さらに、4月はクルーズ船の寄港が18隻あり、昼間時間帯の中心市街地への回遊を後押ししたのと考えられる。
旅館・ホテル	宿泊客数は今月も昨年並み。新規チェーンホテルの影響を懸念する。
旅行業	組合クーポン前年同月対比:102%、全旅クーポン合算後前年同月対比:107%。春の旅行シーズンで前年を上回る数字であるが、将来の見通しは決して楽観出来ないと感じる。
IT事業	今月の売上は前年を上回る結果となった。年度未需要の高まりが見られ、大案件の受注が相次いだ。特にシステム構築の案件に増加傾向があった。年度末を過ぎると受注が落ちる傾向が例年見られるため、一過性の動きにならぬよう提案活動の強化に邁進していきたい。
一般土木建築工事	土木建設業界の景気が良くなっている印象は薄い。企業努力により入職者が増えている会社もある。
電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比137%となった。香長・安芸・室戸地区の工事量が多く、全体を引き上げた。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入:99.2%、回数:96.9%、実働率:49.8%。令和8年3月6日に高知市の事業者1社から運賃改定の要請書が出された(四国運輸局)が、3か月度の6月5日までに県下のタクシー車両数の50%(500台)に当たる事業者から要請書が提出されないと改定にならない規則がある。4月未現在不足している。改定を望んでいる事業者は、改定されなければ運営は苦しくなるばかりと悩んでいる。今回から改定されると県下同一の運賃料金となる。

酒類製造	米価にやや下落傾向が見え始めており、製造コスト面では明るい材料となっているが、主食用米の高騰によって酒米生産者が減少しており、原料米の安定確保に向けては難しい局面が続いている。販売面では、値上げの影響などにより、低価格帯のレギュラー商品を中心に厳しい状況が続いている。その中で、輸出は引き続き堅調に推移している。
製材	石油系資材・製品の供給不足が景況感を更に悪化させるとの声が多い。
印刷	売上微減、操業度微低下となった。特に県内需要が低迷、特に官公需がひどい。県外需要は全般好調、一部の業種に若干低迷も見られるがまずまず。全般には低迷状況だが3月度よりは幾分改善した模様。
生コンクリート製造	4月度の組合員工場の出荷量は対前年比74.2%であった。地域的には横ばい、中央地区は対前年比95%前後であったが、他の地区は40~70%前後で減少している。年度明けの公共工事の減少が要因と考えられる。
卸団地	中東情勢の影響により、資材、包材等の暫定的な大幅な値上げが行われており、弁当等のテイクアウトの店への影響は大きく、更なる価格転嫁を余儀なくされている状況。仕入商品の高騰や品切れの不安あり。販売価格に転嫁できにくい為、収益圧迫の懸念あり。
各種小売(四万十町)	4月の町内の景気動向は、ホルムズ海峡関連で商品価格と仕入に影響がはじめており、品薄になっている商品がちらほら見受けられる。収入は各事業所横ばいもしくは減少といった状況。先行きを不安がっている事業者は多い。仕入れ値の上昇を販売価格に転嫁しきれない事業者もあり、売り値を上げて商品物が入ってこなければどうしようもないこともあって、先行きを不安がっている事業者は多い。
電気機械器具小売	4月度は全商品平均金額で前年比96%。白物家電金額で前年比95%、4K8Kテレビ前年比83%、省エネタイプエアコン前年比98%、リフォーム関連前年比94%であった。
ガソリンスタンド	3月31日の軽油税の暫定税率廃止に伴い、軽油特に免税軽油の大幅な値上げにより土木・農林漁業には大きな痛手となった。原油価格は一時的に下がり始めていたが、中東の問題は解決せず再び上昇している。政府も再び補助金を出し、備蓄放出を行い市況を安定させようとしているが、A重油の品薄は続いている。4月末時点の政府の補助金額は39.7円にもなっており、国の財政が心配である。
商店街(安芸市)	今年で3回目となるお花見会を実施。約90名の参加があった。商店街で料理を仕入れ、楽しく交流ができてみなさんに喜ばれた。
各種小売(四万十町)	前年は、2店閉店があったが、新たに3店開店し、商店街全体の低下を防ぐことができている。全体としては、小売業から飲食店への増加が多くなっている。売上高は伸びているが、利益が伸びていないという店が数軒あった。
飲食店	集客は前年同月を下回る。販売価格は上昇しているため売上高は前年同月と同程度だが、物価高に価格転嫁が追いついておらず、収益は悪化している。前年度同月に比べさらに物価は高騰。光熱費、仕入れ価格、人件費、すべての経費が上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
クリーニング	中東情勢の影響を受けて、灯油、重油などの燃料費やハンガー、包装用ビニールなど資材価格が5割以上の上昇。加えて、包装用ビニールは3月より出荷制限で手に入らない。洗剤を運ぶための18ℓポリ容器も品薄との情報。石油系溶剤も6月より5割値上げ。石油系溶剤は消防法で貯蔵が出来ず、これからの供給に不安の声が上がっている。4月以降クリーニング料金改定の動きが本格化しているが、アップ額は限定的で、度々の改定は難しい。
一般貨物自動車運送	中東情勢の解決の兆しが見えない中、燃料価格は政府補助金である程度抑えられてはいるが、今後は更なる高騰が懸念され一部では供給制限も出ている。石油関連品、輸送資材も不足、高騰してきており組合員企業の経営は非常に厳しい状態といえる。